

- 記者発表資料 -

## 海洋・港湾技術の早期実用化に向けた 実証試験の公募の開始について(平成29年度)

先般、平成29年3月10日に産官学の連携による海洋・港湾技術の早期実用化に向けた「海洋・港湾技術実用推進協議会(第2回)」が開催され、平成29年度も引き続き京浜港ドックでの一般公募を実施することが確認されました。

これを受けて、平成29年度の京浜港ドックを活用した実証試験の一般公募を開始します。なお、参考までに京浜港ドックにおける実証試験に対して、平成28年度実証試験の実施者からのコメントを掲載します。(別紙1)

### 1. 公募課題

- (1) 効率的な港湾工事の施工技術
- (2) 航路啓開における測深・海底状況把握技術
- (3) 遠隔離島における海洋・港湾土木技術
- (4) 海中における遠隔操作を可能とする有用な技術
- (5) 海洋における有用な調査技術
- (6) 海洋資源調査技術 等

### 2. 公募の概要

実証試験に必要な経費は、応募者の負担でお願いします。詳細については、下記ホームページに掲載している公募要領等を確認の上、応募をお願いします。

<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kyoku/03info/01oshirase/20170405/20170405.html>

### 3. 公募期間

平成29年4月12日(水)～平成29年5月10日(水)

### 発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ  
神奈川県政記者クラブ・横須賀市政記者クラブ・その他専門紙

### お問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 課長

課長補佐

係長

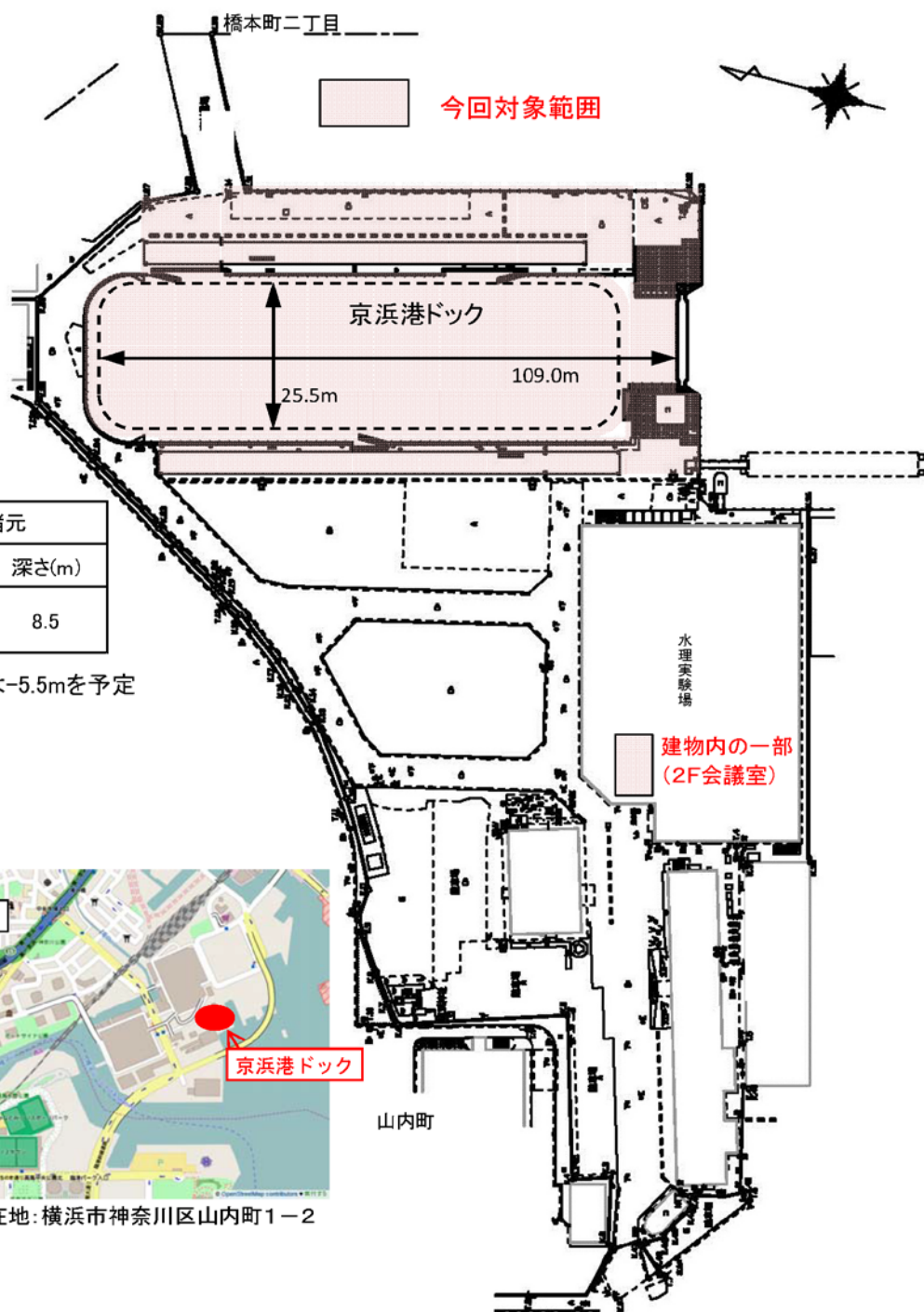
さの	ゆきほ
佐野	幸保
ねりお	しんいちろう
練尾	伸一郎
すが	たかし
菅	崇

電話 045-211-7420 FAX 045-211-0204

## 平成28年度 海洋・港湾技術の早期実用化に向けた 実証試験の実施者のコメント

<p>①応募に当たった際の動機</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響計測機器の性能確認については、独自に民間ドック等を借りて試験を行ってきたところなので、国の施設である京浜港ドックの一般公募がなされたことは、非常にありがたい。</li> <li>・本施設で実験するにあたり、汎用性とアクセス性に非常に優れており、そういったファシリティで技術の検証を実施したかった。</li> <li>・淡水を用いた実験室レベルでは実施することが難しく、また原寸大の構造物や実際の潜水士による状況を模擬することが可能であったため。</li> </ul>
<p>②京浜港ドックで実証試験を行う利点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドック内が手ごろな大きさでありテストピースを自由に配置でき、水中での施工実験の出来形に対して、排水後の気中状態において高精度な測量が可能であること。</li> <li>・現場海域とほぼ同様の環境下(水深、濁り)で潜水士による施工が可能であり、現場における施工上の課題を事前に見出せること。</li> <li>・潮流や波浪がなく、船舶の航行がない安全な環境下で潜水士による施工実験が可能であること。</li> <li>・ドック周りの作業エリアも広く、アクセスも良いことから比較的容易に資材・機械の搬入・設置作業や試験施工が実施し易いこと。</li> </ul>
<p>③実証試験を行うにあたっての京浜港ドックの留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響測深機の使用にあたり、実験条件によっては、ドック側壁の乱反射の影響を考慮する必要があること。</li> <li>・ドック内は閉鎖水域であるので、長い間水を溜めておくと、濁りにより実海域の透明度よりも低くなる。</li> <li>・実験用のクレーン、重機等や注排水を行う発電機やポンプ等の設備の調達を自ら手配する必要があること。</li> </ul>

## 京浜港ドックの概要



### ○施設諸元

京浜港ドック施設諸元		
長さ(m)	下幅(m)	深さ(m)
109.0	25.5	8.5

※ 実験における水深は-5.5mを予定

### ○場所



所在地: 横浜市神奈川区山内町1-2

### ○京浜港ドックの実験例

